

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2024年12月1日事業所名 多機能型事業所Gootela

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	67%	33%	フロアを分けて活動することで環境を調整している	活動ごとにフロアーを分けることで、環境を整えることを継続
	2	職員の配置数は適切である	33%	67%	非常勤職員の勤務回数を増やしている	余裕を持った職員の配置と求人を継続
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	33%	67%	開設時に1階の支援室はバリアフリーに改装	階段に滑り止めがないため、設置を検討。児童用いすを新規購入。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%	0%	業務分担とICTを活用	ICTの苦手な職員への研修を検討
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている			今回初めて実施	実施中
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している			実施中のため未公開	実施予定
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			外部評価については検討中	今後検討していきたい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	83%	17%	内部研修、自治体の研修への参加の機会を作っている	法定研修、事業所内部研修の確保を継続
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	面談で保護者からの聞き取りを考慮して支援計画を作成している	継続
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	チェック形式にしている	必要に応じてアセスメントツールの修正を検討
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	常勤間で定期的に立案している	チームでの立案を継続
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	5領域を組み込んで半年ごとに見直しをしている	継続
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	個々に合わせて設定している	継続
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個別と小集団が組み合わせた計画に基づき活動をしている	継続
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	打ち合わせの時間を作っている	打ち合わせの時間以外でも療育内容の共有を行うことを継続
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	退勤が早い職員は申し送り事項を入力している	継続
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	職員間でチェックして記録をつけるよう工夫をしている	記録をつけることに時間を要するため、定時退勤できないことが課題
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	年2回実施	半年ごとに保護者と面談をしてモニタリングと計画の見直しを実施することを継続。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%	5領域に沿って週ごとに組み合わせている	継続

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者が出席	継続しながらも専門的職員の参加ができる体制を作っていく
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%	0%	学校や学童との情報共有や連絡調整を行っている	保護者様にご協力をいただいて進めていくことを継続
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			該当なし	該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	必要に応じて情報連携の連絡を取っている	継続
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			該当なし	対象者が出た場合、情報提供を実施する
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	積極的に研修を受ける	継続
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	60%	40%	イベント参加で交流の機会を作っている	実施していることは継続しながらも利用者ニーズがあれば交流を広げていくように検討
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	80%	20%	職員全員に周知し、参加希望を募っている	参加すると利用者受け入れに間に合わなくなる場合があるため、参加者は限定される
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	メッセージのやりとりができるツールを活用している	継続
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	80%	20%	専門的支援の職員が中心に行っている	継続しながら一般職員も携わるようにしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約面談で十分な時間をとって説明するようにしている	継続
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	メッセージのやりとりができるツールを活用している	日常的に保護者様とのコミュニケーションと随時の相談を継続
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	40%	イベント参加での保護者交流の機会を作っている	保護者様からの要望があれば連携の機会を増やすことを継続
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	苦情につながる前段階で情報共有をして迅速な対応を心がけている	情報共有の徹底を継続
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	SNSを活用している	発信を増やすことを検討
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	職員間で相互チェックを行っている	情報の取り扱いを厳重に行うことを継続
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	視覚情報での連絡手段を活用	丁寧な対応を心がけることを継続
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	80%	20%	イベント実施の際に計画している	継続

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	職員間では定期的に回覧、保護者には配信で周知	各種マニュアルとBCPについての研修を継続
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83%	17%	机上訓練と実施訓練を複数回実施している	非常時に備えて備蓄品と訓練を継続
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	委員会を設置し、自己チェックシートなども活用している	継続
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	面談の際に説明をし、支援計画にも記載している	継続
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	利用開始前に対応についての調査を実施している	継続
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	回覧をして情報共有をはかっている	日々の振り返りからも事案の確認を継続